

東京都小学校体育研究会研究主題について

1 研究主題等

(1) 研究主題

**三つの資質・能力の関係性を明確にし、
運動や健康についての課題に主体的・協働的に取り組む児童の育成**

(2) 研究の視点

- ア 三つの資質・能力とは、体育科において、どのような姿なのか。また、各領域でどのような姿なのか。
- イ 三つの資質・能力の関係性を明らかにした上で、その学習過程のあり方は、どのようなものか。
- ウ 三つの資質・能力を育むための指導と評価は、どのようなものなのか。

2 研究主題等設定の理由

(1) 研究主題について

21世紀型能力においては、体育科においても社会をつくる人間としての生きる力である資質・能力の三つの柱、即ち「知識・技能」「思考力・判断力等」「学びに向かう力・人間性等」を育成できるようにする必要がある。本研究会は、平成25年度に開催された全国大会の成果と課題を受け、同じ研究主題による3年目の研究を進めてきた。26年度は学習内容及び教材の吟味と児童の学習状況に応じた指導の手立てについて、27年度は「思考・判断」の指導と評価について、28年度は体育科の指導内容である「技能」「態度」「思考・判断」が三位一体となった指導と評価の在り方をより具体化していくこととした。そこで、課題解決的な単元計画及び学習活動に即した評価を共通課題として、幼稚園からの接続や中学校との指導内容の系統性を選択課題として、これらを視点として研究に取り組んできた。

次期学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、単元や教材のまとまりの中で「何ができるようになるか」を明確にしながらか、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を組み立てていくことが求められる。特に、「何ができるようになるか」については、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」という育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づくものである。

答申では、次期学習指導要領において三つの資質・能力をバランスよく育み、確実に身に付けさせる学びの過程を実現するために、授業改善を活性化し、子どもたちの学習を質的に高めていくことを目指している。そのために、学習の内容と方法の両方を重視し、カリキュラムマネジメントを通じて学びの過程を組み立てていくことの重要性を指摘している。その授業改善の視点として「主体的・対話的で深い学び」が挙げられ、授業改善によって目指すべき児童の学びの姿として、体育科では「主体的・協働的な学習活動（学習過程）」が挙げられている。「主体的・協働的な学習（学習過程）」「主体的・対話的で深い学び」のいずれも、学習に取り組む児童の姿として具体化すると、「課題解決的な学習に取り

組む姿」を意味していると捉えることができる。

本研究会では、これまでの研究の成果と課題及び次期学習指導要領の方向性を踏まえ、児童が体育の学習に取り組む目指すべき姿が「自ら課題解決に取り組む姿」であり、自ら課題解決に取り組めるようにするために重視する学習活動を「主体的・協働的な学習活動（運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る学習活動）」と捉えた。体育科での「主体的・協働的な学習活動」は、体育については、児童の学習が、「粘り強く意欲的に解決に取り組むとともに、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間と共に課題を解決し、次の学びにつなげる」という過程を経ることによって、また、保健については、「健康課題に関する課題解決的な学習」によって導かれるものであると考える。このような学習指導は、一つ一つの学習活動そのものが目的なのではなく、常に、「三つの資質・能力」をバランスよく、確実に身に付けることを目的として構成され、工夫されなければならない。

また、体育科の学習過程は、「『三つの資質・能力』を確実に身に付けるために、関係性を重視」するため、「三つの資質・能力」の関係性を明確にした学習過程をつくり、単元や学習指導の各場面において、効果的に指導することが求められる。このような学習が、児童の発達の各段階を通して繰り返して行われることにより、児童が生涯にわたって能動的に学び続けることができるようになる。つまり、運動やスポーツ、健康な生活の実践、体力向上を自らの生活の中に位置付け、これらに関する課題を自ら解決するために必要な力が育まれ、自らの生活の向上を図るための資質・能力を身に付けることができると考える。

このことが、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現することにつながると考え、本研究主題を設定した。

（２）研究の視点について

次期学習指導要領の全面実施までの移行措置期間に当たる時期となるため本研究主題を3か年間継続し、以下の視点によって年次を追って研究を進めて行くこととする。

○研究の視点1 = 1年次の中心となる視点

- ・三つの資質・能力の体育科における具体的な学習状況（子供の学びの姿）

研究主題にある児童の姿を実現するためには、答申に示された「三つの資質・能力」を、次期学習指導要領が目指す方向性や体育科の教科の特性に基づいて具体的に捉え、学習指導を工夫する必要がある。また、その内容を各領域等の特性から捉えなおし、具体的な授業改善を行う。

○研究の視点2 = 2年次の中心となる視点

- ・三つの資質・能力の関係性を明らかにした上で、その学習過程の在り方

三つの資質・能力をバランスよく育み、確実に身に付けさせるためには、それぞれの資質・能力の関係性をとらえ、計画的かつ系統的な指導を行う。

○研究の視点3 = 3年次の中心となる視点

- ・三つの資質・能力を育むための指導と評価

三つの資質・能力を全ての児童にバランスよく確実に身に付けさせるためには、児童の学習状況からそれぞれの資質・能力の習得状況を把握し、必要な指導を行う。

以上